

津和野

TSUWANO



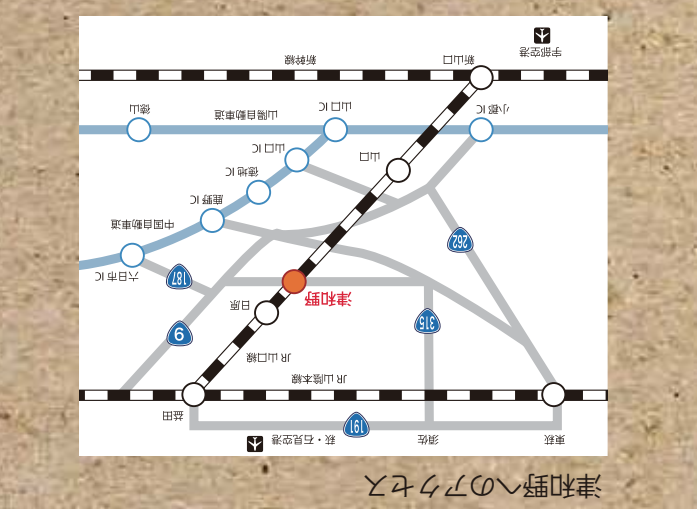
〔元禄期津和野城下侍屋敷明細絵図〕



津和野町教育委員会

津和野伝統的建造物群保存地区の歴史

保存地区は旧城下町の北側にあって「後田」と呼ばれ、中世、室町時代は津和野城の搦手に位置し水田として開発が行われたと考えられています。中世末期に津和野城主吉見氏により城下町として整備されて以来、江戸期を通じて城下町における武家地、町人地と線が開通し、人や物資の移動が、大幅に拡大されてとなりまりました。昭和に入ると、さらに交通量が増え、本町通りから殿町通りへ通じる唯一の古道だけでは済



発行 津和野町教育委員会

〒699-5605 島根県鹿足郡津和野町後田口 64 番地 6
電話 0856-72-1854
<http://www.town.tsuwano.lg.jp/>

重要伝統的建造物群保存地区 主要データ	
・選定年月日	平成 2 5 年 8 月 7 日
・保存条例制定	平成 2 4 年 6 月 2 7 日 公布
・地区決定	平成 2 5 年 2 月 4 日
・保存計画告示	平成 2 5 年 2 月 2 8 日
・保存地区面積	1 1.1 h a
・特定物件（平成26年3月31日現在）	
建築物	1 3 8 件
工作物	2 4 件
環境物件	2 8 件

【重要伝統的建造物群保存地区】
全国の市町村で定められた伝統的建物群保存地区のうち、我が国にとってその価値が特に高いものとして[国の選定]を受けたもの



大正時代の保存地区全景

大正時代の本町通り

保存地区と通りの特性

■殿町通り（①）

保存地区の南端に位置する殿町通りは、江戸初期に坂崎氏が館を構えたところで、江戸時代を通じて筆頭家老の多胡氏をはじめとした上級家臣の居住地でした。多胡氏の表門や幕末に移設された藩校養老館の武道場などが良好に残り、後に整備された土堀や門とあわせ当時の雰囲気や今に伝えています。さらに昭和に入りカトリック教会が殿町通りの北端の東側に建設されました。これは、明治になって商人であった堀九郎兵衛の館跡にキリシタン弾圧により殉教者を弔うために建てられたもので、津和野の歴史を物語るうえで貴重な建築物です。

■本町通り～祇園丁通り（②～④）

殿町通りから続く本町通りや祇園丁通は、旧山陰道沿いの町人地として発展し、嘉永の大火後の商家や、明治以降の酒屋などが立ち並び往時の面影をとどめています。さらにその先に伸びる鉄砲丁通りは城下の北端にあって、城下への入り口としての機能がありました。

地区内を縦横に流れる水路は中世末の城下町の形成とともに整備され、今日までその原形を良好に留めており城下町の歴史的構成要素として貴重です。江戸期から庭で鯉を飼う習慣があり、明治時代に殿町通りの東側に水路を整備し鯉を放流しました。

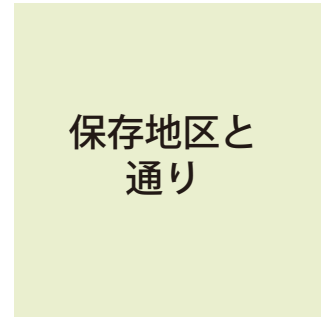
■新丁通り・万町通り（⑤、⑥）

本町通りの西側に平行して走る新丁通りも、江戸時代からその道幅を変えずに至っています。通りの南端の上新丁には土堀が残り、江戸時代の武家地の面影を残しています。中新丁から北側は、明治以降、旅館や飲食店が立ち並び現在もその面影を残す建物が多く存在しています。本町通りの東側に平行して南北に走る万町通りは、江戸期からその道幅を変えずに現在に至っています。江戸時代には通りの南端の一角に町奉行所があり、その周辺に武士が着きました。明治以降は民間に払い下げられ、昭和に入ってから共済病院が建設されました。

伝統的建造物と環境物件

殿町通りには家老多胡家にみられる江戸時代の武家屋敷や藩校養老館の学校建築、本町通りから祇園町にかけては江戸～明治の商家建築、万町通りや新丁通りには明治～昭和初期にかけての町家建築が多数を占め、戦前の様子を比較的良く残しています。

水路は、中世末期から江戸初期にかけて町が整備された際に設けられたもので、現在は西周旧居付近に設けられた津和野川の取水口から水を取り込み、地区内に引き込んでいます。その経路は大きく変わることはなく、部分的に蓋を施しているところもありますが全般的に開渠となっており、流水を見ることができます。



① 殿町通り（藩校や武家の表門など武家地の面影が残る。稲成丁は稲成神社の参道）



② 本町1丁目（江戸期には総門で殿町通りと区分されていた。大型の商家が並ぶ）



③ 本町2丁目（明治初期の造り酒屋や大正から昭和の長屋造りの建物がある）



④ 本町3丁目～祇園丁通り（本町通りから風呂屋丁通りを経て鍵状に繋がる。大正時代に国鉄が開通し比較的新しい建物が多い）



⑤ 新丁通り（本町通りの西側に平行に走り、南には土堀などが残る。道幅が狭い）



⑥ 万町通り（本町通りの東側に平行に走る通り。商家の土蔵などが立ち並ぶ）



⑦ 山根丁通り（江戸時代、武家地と商家町を分けていた通り。南側の側溝は太溝と呼ばれていた）



⑧ 今市通り（本町通りにほぼ直行し、商家町の骨格をなす通り。現在でも初春に市がたつ）



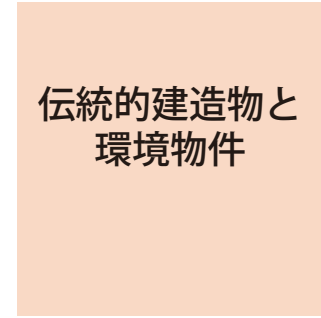
⑨ 魚町通り（江戸期に魚棚があり、旅館も多くあったという。道幅が非常に狭い）



⑩ 風呂屋丁通り（本町通りの北端で直行する。通り名の風呂屋があったかは不明）



⑪ 横町通り（本町通りに直行する、今市通りに延びる筋、土蔵造に挟まれた通り）



伝統的建造物と環境物件



津和野の屋根並み
東へ臨む。津和野川の背後の先に青野山がみえる。



① 田中家店舗兼住宅（沙羅の木）
明治中期の建物で、田中氏は昭和に入ってから呉服店を営んだ。正面の開口部に改変が見られるが、全体として建設当時の様式を残している。座敷に面した庭園もすばらしい。



② カトリック教会（登）
町年寄の堀氏宅の跡に昭和6年に建てられたゴシック風建築の教会。敷地の背後には神父館も残る。



③ 旧河田家具店（三松堂、菓心庵）（登）
明治中期の建築で、正面の財間と双壁をなす。明治から大正にかけて質屋や家具屋を営んだ。座敷に面した中庭を設け、土蔵で周囲を取り囲む。



④ 財間家住宅（登）
明治中期の建築で、当初は酒の販売業を営んでいた。総ケヤキ造の本門や土蔵などで敷地を取り囲む。青野山を借景とした中庭もすばらしい。



⑤ 分銅屋七右衛門本店（椿家）（登）
嘉永6年（1853）の大火直後に建てられた保存地区内最古の商家建築。建物が通りに対してわずかに振れ、座敷に面した中庭や背面の土蔵が江戸の町屋の特徴を残す。



⑥ 俵種苗店（登）
明治中期の建築で、金物屋を営み、農機具、種苗なども販売してきた。店舗の土間や表のシトミ戸が当時の様式をよく残している。



⑦ 呉服商さゝや（登）
安政年間の建築で、さゝやは御用商人として呉服店を営んだ。正面の開口部に改変が見られるが、全体として建設当時の様式を残している。座敷に面した庭園もすばらしい。



⑧ 古橋酒造場（登）
大正年間築の酒屋。明治初期の創業で併設された擬石張りの洋館の一部が残る。本町通りに直行した横町通りに白壁と板張りの土蔵を配置して敷地を囲んでいる。



⑨ 俵屋華泉酒造（登）
享保年間から続く造り酒屋で、建物は明治初期の建築。正面の両脇に土蔵を配置し、背面の通りまで酒蔵が並び、中庭に面した座敷には杉戸絵を残す。



環境物件
樹木
商家の前庭に明治時代に植えられた松。通りの景観の構成要素になっている。

用水路と池
江戸初期に城下の防災のために整備されたといわれる用水路。用水路から水を屋敷内に引き込んで池を設けて鯉を飼う。